



広重版画より 三島 朝霧

第2418回例会

2025.4.24雨

司 会

南木一仁君

ロータリーソング

「それでこそロータリー」
指揮 和田由貴美君

会長挨拶

副会長 藤江康儀君

皆さまこんにちは、4/20(日)ZOOMにて地区研修・協議会(稲葉雅之ガバナーエレクト主催)に参加いたしました。また一緒に参加していただきました、メンバーの方々苦勞様でした。次年度のスローガン UNITE FOR GOOD(マリオ RI会長エレクト)良いことのために手を取り合おう であります。ロータリーの最大の贈り物は会員であり、最大の財産であります。ということで、大きく二つ、会員増強と有効な事業計画3か年計画または5か年計画を立ててクラブの活性化を推進していただきたい。そして1・2・3年ごとの目標を立て検証を加えて推進していただきたい。とのことでありました。その一つに、DEI推進委員会(誰もが笑顔で・居心地の良いクラブ作り)Dは ダイバーシティー多様性、Eは エクイティー公平性、Iはインクルージョン包括的の推進。また規定審議会(3年に一度)がありまして2016年2019年はかなり変わりました。今年の審議会では日本から2議案可決(52議案中)中でも新クラブ設立が15人からに変更、人頭分担金 26~27 42ドル75セント、27~28 44ドル63セント、28~29 46ドル50セントと決まりました。また地区大会(毎年開催)→地区大会(毎年開催することもある)という規定に変わりました。ロータリーは単年度制ですが次年度は継続性(アーチックからマリオへ)へと継続性をもって推進するとのことでした。私共も特別委員会を創り3か年計画等の検討を進めてまいりました。先日、パスト会長会議を開催して、現在検討している3か年計画を川名特別委員長からプレゼンしていただき、承認を得ました。次年度、新たな挑戦には不安を伴うかもしれませんが、皆様方の協力の元、成就に向けて邁進したいと思っておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

出席報告

	出席総数	出席率	メー ッ ク ブ	修 出 席 正 率
前々回	45/50	90.00%	46/50	92.00%
今回	34/48	70.83%	会員総数	52名

欠席者 赤池君、秋元君、芦川君、勝俣君、木村君、窪田君、佐野君、須田君、諏訪部(照)君、田代君、橋本君、増田君、森崎君、渡邊(真)君

表 彰



米山功労者マルチプル 藤江康儀君

幹事報告

幹事 加藤憲勝君

1. 本日の例会、地区協議会報告 次期幹事 森藤 賢君です。よろしくお願いいたします。
2. 前回の例会でミャンマー大地震支援金を会員皆様から徴収させていただきました。総額37,500円でした。ありがとうございます。
3. 次年度のプログラム作成にあたり、住所、電話番号等に変更がある方は事務局、幹事、副幹事にお伝えください。
4. スマイルが予算に達していません。奮ってスマイルお願いします！
5. 次回例会は5月8日夜間例会 呉竹 18:30です。卓話は杉崎亮慈君のゲストスピーカー NPO法人みしまびと理事長 山本望様です。よろしくお願いいたします。



- ◆栗原(康)君、母の日が近づいてきました。伊豆河童では、母の日用のあんみつなど揃えています。父の日、お中元も扱っていますのでぜひご利用ください。
- ◆Dテーブル、先週金曜日にDテーブル会を開催しました。鈴木会長、加藤幹事、ご出席ありがとうございました。伊丹さん、ごちそうになりました。

卓 話

地区研修・協議会報告

次期幹事 森藤 賢君

先日(20日(日))地区研修・協議会に藤江会長エレクト、各担当委員の方々と共にZOOMにて参加いたしました。まず最初に2025～26年度RI会長のマリオ・セザール・マルティンス・デ・カルマゴ氏の来年度の方針を説明させていただきます。

マリオ会長はメッセージとして「Unite for Good(よいことのために手を取りあおう)」を掲げています。

このメッセージは、分断が広がる現代社会において、ロータリー会員が協力し合い、団結することを強調しています。その為に、

増強の重要性(絶えず新会員を迎え入れること)

継続性の重要性(将来を見据えた計画を立てること)

パートナーシップの重要性(外部組織との連携)

次世代へつなぐロータリー(会員基盤を継続的に強化すること)

を重要事項としております。

次にRIより

1.25、26年度ロータリアンの行動規範

2.25ー26年度12のテスト

3.2026年の国際大会が台北で開催されます。

次に地区より

1、地区大会が12/6(土)、7(日)に伊東市、伊豆市で開催されます。場所は川名ホテルと伊豆ベロドロームです。

2、ジャパンポータルサイトを活用して下さい。

情報の共有、資料の提供、イベント情報の掲載等がなされております。

3、ロータリーバッジが変わりました。

「Rotary」の文字が横についているものが公式になります。(従来の物もそのまま使用できます。)

RI 会長エレクト紹介

マリオ・セザール・マルティンス・デ・カルマゴ

2024-25年度会長エレクト

Santo Andréロータリークラブ ブラジル

印刷業界のビジネス・コンサルタントであり、父親が設立した印刷会社Gráfica Bandeirantesの元取締役。現役時代、同社はブラジルや南米のクライアントに印刷物を提供するサプライヤーに成長。

軍学校に通い、ロータリー青少年交換プログラムで米国ミネソタ州セントポールの高校を卒業。ドイツのオッフェンバッハにある印刷機メーカー、MAN Rolandで1年間のインターンシップを経験した後、Fundación Getulio Vargas' São Paulo School of Business Administrationより学士号を取得。また、サン・ベルナルド・ド・カンポ法科大学より法学士号を取得。

ブラジルのグラフィック技術協会やブラジル印刷産業協会(ABIGRAF)の会長など、数多くの専門家団体を率いた経験を有する。また、全国産業連盟のサンパウロ州産業連盟(FIESP)代表理事、FIESP副会長、ラテンアメリカ印刷産業連盟副会長も歴任。フロリダ印刷協会から「Printing Leader of the Americas」賞、NPES(印刷・出版・加工技術サプライヤー協会)から「Global Presidential Print Award」を受賞。

1980年、23歳でロータリーに入会。理事と管理委員を歴任し、ブラジルで4番目のRI会長となる。RIラーニングファシリテーター、Avoidable Blindness(回避可能な失明)タスクフォースのゾーンコーディネーター、健康問題のタスクフォース中南米コーディネーター、RI会長代理、規定審議会代表議員など数多くの役割を歴任。また、RI会員増強委員会、ロータリー財団プログラム財務委員会、国際ポリオプラス委員会にも貢献。

ロータリーの世界的な活動に感銘を受け、「超我的奉仕によって、ロータリーは、私が知る限り、他に類を見ない独自の世界的アイデンティティを築き上げた。私たちは皆、世界を広げてくれる団体に所属していることを忘れてはならない」と話す。

2020年のコロナ禍の初期に、二つの目標に着手(一つは法科大学院卒業から38年後に司法試験に合格するための勉強、もう一つはイタリア語の勉強)。趣味は歴史や伝記の本を読むことと、おいしいワインを味わうこと。ロータリー財団特別功労賞受賞者。

ロータリー財団特別功労賞を受賞。デニース夫人と共に、メジャードナー、ベネファクターとしてロータリー財団を支援。

(週報担当:前田博利)